

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成 22年 11月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の閑静な高台にあり、リビングからは瀬戸内海が一望できます。テラスでは、四季折々の景色を眺めながらのバーベキューや芋焼きを楽しめ、夏には三津浜の花火を絶好の場所から見る事ができます。恵まれた環境で、入居者様は、穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との協力、連携を大切にしており、地域活動には準備段階から積極的に協力、参加して地域住民から感謝されている。毎月1回開催されるユニット会議や併設のホームの管理者を交えた会議では代表者の出席を得て、自由な雰囲気意見交換を行い改善策につなげている。スタッフは常に、「支援をさせていただいている」という感謝の気持ちと傾聴の姿勢を大切にし、利用者や家族との信頼関係を築き、利用者が安全でより幸せな生活が送れるよう努めている。シーズンに合わせて外出先を選び、できる限り回数を多くして、利用者、スタッフ共々、楽しい時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日 22年 11月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、傾聴・感謝の理念に基づき、日々ケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 「その人らしく安心して、充実した生活が送れるよう、利用者によく耳を傾け、日々感謝の気持を大切にしながら支援に努める。」を理念として、利用者がより幸せに暮らせるよう支援している。	地域との協力、連携の重要性を明示した理念を全職員で作成し、利用者、家族、職員全員で共有し合い、なお一層地域との関わりを大切にしたい支援が期待される。また理念は重要事項説明書等に記載し家族にも分かるように記載する等の取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内清掃の参加や祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一員としての役割を果たすよう努めている。	
			(外部評価) 地域活動には準備の段階から協力し、地域住民に感謝されている。敬老会にも参加し、小学生との交流にも努め、また地区の運動会では地域住民との交流を深めている。また隣接している併設の施設に出かけ、楽しんでいる。花火大会には高台にあるホームに近隣の人たちが訪れ、共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や公民館での集いを利用し、グループホームでの生活を見て頂き、気軽に見学・相談ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、会議を開き、地域の方と様々な情報交換を行っている。また、入居者様にも参加して頂き、ホームでの生活について話しをして頂いている。	
			(外部評価) 2か月に1回、各立場の出席者を得て開催している。ホームから報告を行い、また市担当者、地域代表者などから意見や要望を聴き取っている。災害訓練の実施報告や反省点なども伝え、地域住民に協力を依頼している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者には、事業所の実情などについて運営推進会議などの機会にお伝えしている。電話や直接訪ねたりすることで、相談にも乗って頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者や市社協との情報交換は、運営推進会議で十分行われている。不明な点や要望点などは、そのつど連絡を取り合っている。生活保護者の調査には、市担当者が1年に1～2回来訪し必要な情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会などで、スタッフ全員が理解・把握に努めている。施錠はせず、自由に散歩等ができるよう支援している。	
			(外部評価) 職員は禁止対象となる具体的な行為に対して学習を行い、十分理解している。昼間には玄関に施錠せず一人ひとりの外出傾向を把握し、安全な生活を見守っている。全職員で自由でのびやかな生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についてはショートミーティングの時間に意見交換し、未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会やケアマネ連絡会などに管理者や職員が積極的に出席し、学ぶ機会を持ち、必要時に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約または解約・改定などの時は入居者様・ご家族様に不安や疑問について聞き、十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所のつど、こちらから積極的に声かけし、意見・要望をお聞きするようにしている。玄関の意見箱にはいつでも自由に投稿できるようにしている。  (外部評価) 利用者や家族と職員の信頼関係を深め、お互いに気さくに話し合える関係性を大切にしている。遠隔地の家族には機会あるごとに連絡を取り情報交換を行っている。ホーム通信は毎月届け、健康面、生活面に関して具体的な情報を伝え、家族からも声を聴き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のショートミーティングや月に1回のユニット会議の際に職員の意見や提案を聞き、本部で2週間毎に開かれる管理者会議でその旨を発言・報告している。</p> <p>(外部評価) 毎月1回のユニット会議や2週間に1回の社長、部長、併設のホームの管理者が出席しての管理者会議では職員の意見も提案し、改善可能な点は即改善に向けている。社長、部長は職員に理解を持ち、お互いが忌憚のない意見を述べ合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個別の面談を行い、各自がやりがいのある職場環境や条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加するよう促し、参加者にはレポートをまとめてもらい、知識や情報をできるだけ同水準で共有できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会に参加し、他事業所との意見交換を行っている。すみれグループの各事業所については管理者会議で意見交換ができています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえて、本人の行動を把握し、今不安に思っていることや、困っていることを探り解決できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることに耳を傾け、家族が納得されるまで話し合い、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族様の話しから今必要としているサービスを探り、提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が「できること」と「できないこと」を理解し、家事などのお手伝いなどをさせていただいた時には、感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にて、できるだけ情報や要望を聞き、理解した上で、一緒に考え協力を得ながら、支えていけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き継ぎ利用している。また、電話での取次ぎや面会も自由にして頂き、これまで大切にしている人や関係が途切れないよう支援している。	
			(外部評価) 地区公民館のふれ合いサロンに出かけたり、スーパーに買い物に出かけた時には、地域の人が声をかけてくれる。家族が訪ねた際には、楽しく過ごしている。お盆やお正月には家族のもとで過ごす利用者もいる。シーズンに合わせて馴染みの場所を訪れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士のトラブルについては、職員がさりげなく会話に入ること、未然に察知し、防ぐことに努めている。また、孤立しないようレクなどを利用して、入居者様同士が協力し、支えあえるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し、最小限の環境変化にできるようにして頂いている。契約終了後も必要に応じ相談に乗れるような体勢をつくっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中で、思いや暮らし方の希望や意向を具体的にお聞きするよう努めている  (外部評価) 話しが困難な利用者からは、表情や言葉遣いから要望や思いを読み取っている。特に排泄支援の際には、十分気を配り、希望に沿えるよう努めている。家族からは機会があるごとに、日常の生活面での要望や気づきを聴き取り、記録に残して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴シートを作り、ケアプランに反映している。また、毎日ケアチェック表を活用し、経過を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録はできるだけ細かく記録するようにし、申し送りや毎日のミーティングで問題点や支援方法を話し合い、実行するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員一人ひとりが担当を持ち、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い本人や家族の希望を取り入れながら作成している。	
			(外部評価) 詳細なチェック表を基に各担当者が計画案を作成し、利用者や家族の意見を聴き取りながら、全職員で検討を加えて介護計画を作成している。基本的には3か月毎に見直しを行うが、生活の状態、健康面などを考慮して、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 具体的に会話や精神面・身体面などを記入し、職員間で情報を共有しながらケアに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ホームで出来る限り通院介助や買い物など柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事にも参加し、地域資源との協働を図っている。また、入居様が外にでられて分からなくなった時には町内放送をして協力して頂ける様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃から、本人や家族の希望を大切に、入居前には 馴染みの病院に行かれる方もおられた。現在、ほとん どの方は医療連携をとっているクリニックの往診を受 けている。  (外部評価) ほとんどの利用者が協力医を主治医として、2週間に 1回の往診により健康管理が行われている。主治医の 判断で胸部X線検査を受けたり、定期的に血液検査も 受けている。インフルエンザワクチンは職員、利用者 とも全員が接種している。緊急時には主治医と連絡を 取っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職にも随時相談しているが、往診表を作り活用し ている。それにより適切な往診が受けられるようにし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には、できるだけ面会に行き、入院先の看 護師に相談したり、家族との連絡を密にしたりしてい る。ムンテラの際には職員も家族と一緒に参加し、そ の旨はかかりつけ医に報告するようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 折にふれ、家族と話し合い、できるだけ意向に添える ようにしている。また、主治医を交えての話し合いも 行っており、ホーム内でできることを説明し、了解を 得ている。  (外部評価) 看取りケアに関しては入居時に家族と話し合い、家族 の希望に合わせてホームが対応している。職員には看 護師が多く、医療的な対応が可能であり看取りケアに 対応できる体制を整えつつある。	看取りケアのマニュアルをもとに学習を定期的 に実施したり、外部の研修に参加し知識や技術 を習得し、利用者本位のより良い看取りケア が行えるよう取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてはホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し実践に役立つようにしている。夜勤時の職員は、上下ユニットでベテランと新人の職員を組めるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来て頂き、訓練指導をしてもらい、火元や避難場所の設定も行っている。  (外部評価) 消防署の指導を受けながら夜間想定での避難訓練を実施している。運営推進会議で消防署からの注意事項や反省事項を受け、出席者で意見交換を行った。自主防災組織の責任者にも協力依頼を行っている。訓練時には町内放送の協力も得ている。	自主防災組織にはなお一層協力依頼をしておくことが望まれる。地震に備えて、室内のテレビや廊下のロッカーなどを固定したり、緊急連絡の訓練を定期的に行い繰り返し迅速、確実に連絡ができるよう今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉のかけ方、接し方について気になることがあれば、職員同士で指摘し合い、注意している。特に排他介助については、プライバシー確保に努めている。  (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、職員全員で重要性を認識している。利用者に対しては思いやりの心を大切にし、プライドを傷つけることなく「支援させていただいている」という感謝の気持ちで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、選択肢の多い中で決められるよう「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの個性を重視し、できる限りその方に合った生活リズムで暮らせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添うよう髪型や服装、清潔に気配り配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の意思や能力に合わせ、無理のない程度に参加して頂いている。  (外部評価) 基本的には法人で栄養管理を行い、献立を立てている。ホーム独自の判断で好みの食事を準備することもある。それぞれ好みの食器を使用し、楽しく食事ができるよう取り組んでいる。状態に応じて刻み食を準備し、ゆったりと介助に努めている。	食事介助を受けている利用者に話しかけると同様に、言葉数の少ない利用者にも努めて話しかける等、さらに楽しい雰囲気づくりに努めることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や食事内容を一人ひとりの状態により変えている。ペットボトルに白湯やお茶を入れ、居室でも自由に飲めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行っている。出来るだけご自分でして頂く様にしているが、磨き残しがないよう職員が仕上げを行うこともある。口の動きや歯・歯肉状態の観察もしており、状態により訪問診療もして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを探ることから始め、訴えの少ない方には時間誘導し、できるだけ失敗やオムツ内の排泄とならないよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表には各利用者の排泄記録が詳細に記載されており、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して、状態に合ったきめ細かい支援にあたっている。排泄支援を嫌がる利用者に対しては、転倒の危険性に十分配慮し、家族と相談をしながら最善の支援を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給の声かけをし、食品も乳製品や植物繊維を多く摂って頂き、薬や浣腸に頼らないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に希望のない方は、曜日や時間帯を決めず、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 週に少なくとも2～3回の入浴支援を行っているが、入浴希望者があれば、毎日でも介助を行っている。また入浴を嫌がる利用者に対しては、ゆったりと話しかけ雰囲気づくりに努め、快適な気分で入浴してもらえるよう努めている。入浴用のリフトでの介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 表情や体調の観察を行い、疲れが出ないように休んで頂いている。温度・湿度・騒音・まわりの状況などを配慮し安心して眠れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り、わかり易いように工夫している。病状の変化があった時は早急にかかりつけ医に指示を仰ぎ、薬の変更などについては、その都度口頭や記録などで連絡に漏れがないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 大正琴や縫い物などそれぞれの好みにあわせた援助ができるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別に買い物に行ったり図書館を利用したり、できる限り外出支援を行っている。	
			(外部評価) 転倒がないように安全に配慮しながら散歩をしている。季節に合わせて外出先を選び、できる限り回数を増やすよう努めている。菊花展やコスモス畑、総合公園などに出かけたり、大型スーパーでの買い物やレストランでの食事に出かけている。お正月には厳島神社や護国神社に初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理ができる方は、家族の了解を得て、自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取り次ぎをした時は、居室で話して頂くなどプライバシーに配慮している。また、希望があれば手紙の投函も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下などの共有の場は明るく広々としており、お知らせコーナーや写真展示をしている。また、季節感を取り入れた壁画作りなど利用者様と共に作成している。	
			(外部評価) 居間、食堂、廊下は広く、窓からは瀬戸内の海が臨める等心が安らぐ環境である。見やすい時計や日めくりカレンダーが備えられ時の見当識に役立てられている。季節の飾りつけがされており、廊下には外出時や行事の写真を飾り楽しい雰囲気づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはいつでもくつろげるようソファを置き、ベランダには座ってゆっくりと景色を眺められるようベンチも設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室では、昔から使っている物や馴染みの物、入居後に買い揃えた物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) ダンスとベッドはホームの備え付けである。畳の部屋を好む利用者には、畳の間を設けている。時計やカレンダーを備え、時の見当識に役立てている。馴染みの写真や物品を持ち込み、自分に合った部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室など分かり易いように各部屋にネームをつけている。浴室には滑り止めマットを敷き、安全に入浴できるようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成22年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の閑静な高台にあり、リビングからは瀬戸内海が一望できます。テラスでは、四季折々の景色を眺めながらのバーベキューや芋焼きを楽しめ、夏には三津浜の花火を絶好の場所から見る事ができます。恵まれた環境で、入居者様は、穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との協力、連携を大切にしており、地域活動には準備段階から積極的に協力、参加して地域住民から感謝されている。毎月1回開催されるユニット会議や併設のホームの管理者を交えた会議では代表者の出席を得て、自由な雰囲気意見交換を行い改善策につなげている。スタッフは常に、「支援をさせていただいている」という感謝の気持ちと傾聴の姿勢を大切に、利用者や家族との信頼関係を築き、利用者が安全でより幸せな生活が送れるよう努めている。シーズンに合わせて外出先を選び、できる限り回数を多くして、利用者、スタッフ共々、楽しい時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) うみ

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日 20年 11月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、傾聴・感謝の理念に基づき、日々ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「その人らしく安心して、充実した生活が送れるよう、利用者によく耳を傾け、日々感謝の気持を大切にしながら支援に努める。」を理念として、利用者がより幸せに暮らせるよう支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 町内清掃の参加や祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一員としての役割を果たすよう努めている。</p> <p>(外部評価) 地域活動には準備の段階から協力し、地域住民に感謝されている。敬老会にも参加し、小学生との交流にも努め、また地区の運動会では地域住民との交流を深めている。また隣接している併設の施設に出かけ、楽しんでいる。花火大会には高台にあるホームに近隣の人たちが訪れ、共に楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や公民館での集いを利用し、グループホームでの生活を見て頂き、気軽に見学・相談ができるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、会議を開き、地域の方と様々な情報交換を行っている。また、入居者様にも参加して頂き、ホームでの生活について話しをして頂いている。	
			(外部評価) 2か月に1回、各立場の出席者を得て開催している。ホームから報告を行い、また市担当者、地域代表者などから意見や要望を聴き取っている。災害訓練の実施報告や反省点なども伝え、地域住民に協力を依頼している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者には、事業所の実情などについて運営推進会議などの機会にお伝えしている。電話や直接訪ねたりすることで、相談にも乗って頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者や市社協との情報交換は、運営推進会議で十分行われている。不明な点や要望点などは、そのつど連絡を取り合っている。生活保護者の調査には、市担当者が1年に1～2回来訪し必要な情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会などで、スタッフ全員が理解・把握に努めている。施錠はせず、自由に散歩等ができるよう支援している。	
			(外部評価) 職員は禁止対象となる具体的な行為に対して学習を行い、十分理解している。昼間には玄関に施錠せず一人ひとりの外出傾向を把握し、安全な生活を見守っている。全職員で自由でのびやかな生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についてはショートミーティングの時間に意見交換し、未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会やケアマネ連絡会などに管理者や職員が積極的に出席し、学ぶ機会を持ち、必要時に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約または解約・改定などの時は入居者様・ご家族様に不安や疑問について聞き、十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所のつど、こちらから積極的に声かけし、意見・要望をお聞きするようにしている。玄関の意見箱にはいつでも自由に投稿できるようにしている。  (外部評価) 利用者や家族と職員の信頼関係を深め、お互いに気さくに話し合える関係性を大切にしている。遠隔地の家族には機会あるごとに連絡を取り情報交換を行っている。ホーム通信は毎月届け、健康面、生活面に関して具体的な情報を伝え、家族からも声を聴き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のショートミーティングや月に1回のユニット会議の際に職員の意見や提案を聞き、本部で2週間毎に開かれる管理者会議でその旨を発言・報告している。</p> <p>(外部評価) 毎月1回のユニット会議や2週間に1回の社長、部長、併設のホームの管理者が出席しての管理者会議では職員の意見も提案し、改善可能な点は即改善に向けている。社長、部長は職員に理解を持ち、お互いが忌憚のない意見を述べ合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個別の面談を行い、各自がやりがいのある職場環境や条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加するよう促し、参加者にはレポートをまとめてもらい、知識や情報をできるだけ同水準で共有できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会に参加し、他事業所との意見交換を行っている。すみれグループの各事業所については管理者会議で意見交換ができています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえて、本人の行動を把握し、今不安に思っていることや、困っていることを探り解決できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることに耳を傾け、家族が納得されるまで話し合い、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族様の話しから今必要としているサービスを探り、提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が「できること」と「できないこと」を理解し、家事などのお手伝いなどをしていただいた時には、感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にて、できるだけ情報や要望を聞き、理解した上で、一緒に考え協力を得ながら、支えていけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き継ぎ利用している。また、電話での取次ぎや面会も自由にして頂き、これまで大切にしている人や関係が途切れないよう支援している。	
			(外部評価) 地区公民館のふれ合いサロンに出かけたり、スーパーに買い物に出かけた時には、地域の人が声をかけてくれる。家族が訪ねた際には、楽しく過ごしている。お盆やお正月には家族のもとで過ごす利用者もいる。シーズンに合わせて馴染みの場所を訪れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士のトラブルについては、職員がさりげなく会話に入ることで、未然に察知し、防ぐことに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し、最小限の環境変化にできるようにして頂いている。契約終了後も必要に応じ相談に乗れるような体勢をつくっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にし、入浴や食事などの希望にできるだけ添えられるようにしている。  (外部評価) 話しが困難な利用者からは、表情や言葉遣いから要望や思いを読み取っている。特に排泄支援の際には、十分気を配り、希望に沿えるよう努めている。家族からは機会があるごとに、日常の生活面での要望や気づきを聴き取り、記録に残して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活暦シートを作り、ケアプランに反映している。また、毎日ケアチェック表を活用し、経過を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録はできるだけ細かく記録するようにし、申し送りや毎日のミーティングで問題点や支援方法を話し合い、実行するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員一人ひとりが担当を持ち、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い本人や家族の希望を取り入れながら作成している。	
			(外部評価) 詳細なチェック表を基に各担当者が計画案を作成し、利用者や家族の意見を聴き取りながら、全職員で検討を加えて介護計画を作成している。基本的には3か月毎に見直しを行うが、生活の状態、健康面などを考慮して、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 具体的に会話や精神面・身体面などを記入し、職員間で情報を共有しながらケアに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ホームで出来る限り通院介助や買い物など柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事にも参加し、地域資源との協働を図っている。また、入居様が外にでられて分からなくなった時には町内放送をして協力して頂ける様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃から、本人や家族の希望を大切に、入居前には 馴染みの病院に行かれる方もおられた。現在、ほとん どの方は医療連携をとっているクリニックの往診を受 けている。  (外部評価) ほとんどの利用者が協力医を主治医として、2週間に 1回の往診により健康管理が行われている。主治医の 判断で胸部X線検査を受けたり、定期的に血液検査も 受けている。インフルエンザワクチンは職員、利用者 とも全員が接種している。緊急時には主治医と連絡を 取っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職にも随時相談しているが、往診表を作り活用し ている。それにより適切な往診が受けられるようにし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には、できるだけ面会に行き、入院先の看 護師に相談したり、家族との連絡を密にしたりしてい る。ムンテラの際には職員も家族と一緒に参加し、そ の旨はかかりつけ医に報告するようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の方針については、事前に家族と十分 に話し合いを行っている。その時、ホームでできるこ とについては家族に説明し、了解を得ている。  (外部評価) 看取りケアに関しては入居時に家族と話し合い、家族 の希望に合わせてホームが対応している。職員には看 護師が多く、医療的な対応が可能であり看取りケアに 対応できる体制を整えつつある。	看取りケアのマニュアルをもとに学習を定期的 に実施したり、外部の研修に参加し知識や技術 を習得し、利用者本位のより良い看取りケア が行えるよう取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてはホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し実践に役立つようにしている。夜勤時の職員は、上下ユニットでベテランと新人の職員を組めるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来て頂き、訓練指導をしてもらい、火元や避難場所の設定も行っている。  (外部評価) 消防署の指導を受けながら夜間想定での避難訓練を実施している。運営推進会議で消防署からの注意事項や反省事項を受け、出席者で意見交換を行った。自主防災組織の責任者にも協力依頼を行っている。訓練時には町内放送の協力も得ている。	自主防災組織にはなお一層協力依頼をしておくことが望まれる。地震に備えて、室内のテレビや廊下のロッカーなどを固定したり、緊急連絡の訓練を定期的に行い繰り返し迅速、確実に連絡ができるよう今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉のかけ方、接し方について気になることがあれば、職員同士で指摘し合い、注意している。特に排他介助については、プライバシー確保に努めている。  (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、職員全員で重要性を認識している。利用者に対しては思いやりの心を大切にし、プライドを傷つけることなく「支援させていただいている」という感謝の気持ちで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、選択肢の多い中で決められるよう「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にし、入浴や食事などの希望にできるだけ添えられるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添うよう髪型や服装、清潔に気配り配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の意思や能力に合わせ、無理のない程度に参加して頂いている。  (外部評価) 基本的には法人で栄養管理を行い、献立を立てている。ホーム独自の判断で好みの食事を準備することもある。それぞれ好みの食器を使用し、楽しく食事ができるよう取り組んでいる。状態に応じて刻み食を準備し、ゆったりと介助に努めている。	食事介助を受けている利用者に話しかけると同様に、言葉数の少ない利用者にも努めて話しかける等、さらに楽しい雰囲気づくりに努めることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や食事内容を一人ひとりの状態により変えている。必要時には水分量を記録し健康面に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行っている。出来るだけご自分でして頂く様にしているが、磨き残しがないよう職員が仕上げを行うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを探ることから始め、訴えの少ない方には時間誘導し、できるだけ失敗やオムツ内の排泄とならないよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表には各利用者の排泄記録が詳細に記載されており、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して、状態に合ったきめ細かい支援にあたっている。排泄支援を嫌がる利用者に対しては、転倒の危険性に十分配慮し、家族と相談をしながら最善の支援を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給の声かけをし、食品も乳製品や植物繊維を多く摂って頂き、薬や浣腸に頼らないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に希望のない方は、曜日や時間帯を決めず、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 週に少なくとも2～3回の入浴支援を行っているが、入浴希望者があれば、毎日でも介助を行っている。また入浴を嫌がる利用者に対しては、ゆったりと話しかけ雰囲気づくりに努め、快適な気分で入浴してもらえるよう努めている。入浴用のリフトでの介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中できるだけレクや散歩など充実できるようにし、使い慣れた寝具で、夜は休んで頂き、安心して眠れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り、わかり易いように工夫している。病状の変化があった時は早急にかかりつけ医に指示を仰ぎ、薬の変更などについては、その都度口頭や記録などで連絡に漏れがないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の生活歴を大切に、好きなことや嗜好品をできるだけ続けられるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子でも散歩できるよう敷地は整備され、外出支援も下見を行った上で実行するようにしている。運動会や盆踊大会などの地域行事は地域の方が協力して下さり、優先席も準備して頂いている。	
			(外部評価) 転倒がないように安全に配慮しながら散歩をしている。季節に合わせて外出先を選び、できる限り回数を増やすよう努めている。菊花展やコスモス畑、総合公園などに出かけたり、大型スーパーでの買い物やレストランでの食事に出かけている。お正月には厳島神社や護国神社に初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理ができる方は、家族の了解を得て、自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取り次ぎはもちろん希望により家族に電話できるようにしている。手紙を書いて頂きポストの投函もお手伝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングは広く、落ち着いて過ごせるつくりになっている。また、よくしつは・トイレ以外にも清潔に気を配っている。リビングの壁の一角は季節感のある飾りつけをするよう心掛けている。	
			(外部評価) 居間、食堂、廊下は広く、窓からは瀬戸内の海が臨める等心が安らぐ環境である。見やすい時計や日めくりカレンダーが備えられ時の見当識に役立てられている。季節の飾りつけがされており、廊下には外出時や行事の写真を飾り楽しい雰囲気づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはいつでもくつろげるようソファを置き、ベランダには座ってゆっくりと景色を眺められるようベンチも設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室では、昔から使っている物や馴染みの物、入居後に買い揃えた物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) ダンスとベッドはホームの備え付けである。畳の部屋を好む利用者には、畳の間を設けている。時計やカレンダーを備え、時の見当識に役立っている。馴染みの写真や物品を持ち込み、自分に合った部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの残存能力の把握に努め、それらを活かし、自立した生活を送ることができるよう手すりを付けるなどの環境づくりをしている。	